# 北海道21年目の決意

北海道大学医師会
北海道大学大学院医学研究院　前田（まえだ）　拓（たく）

私は大阪生まれの大阪育ちであり、出身大学も関西の神戸大学です。そんな私ですが、歴史と伝統を有する教室で形成外科を学びたいとの思いで2006年に大学卒業後に単身北海道にやってきました。室蘭で初期臨床研修を終え、2008年から北海道大学の形成外科で形成外科医としてのキャリアをスタートさせ、本当にあっという間に20年が経ちました。当初は雪国での生活に不安を覚えましたが、人生の約半分をこの北海道で過ごすことになり、今では歴とした北海道人（道民）になりました。

これまであまり北海道がどのようにして開拓されてきたのかということについては意識してこなかったのですが、先日本屋で面白そうなタイトルの本「札幌誕生」(門井慶喜著)を見つけて一気読みしました。そもそも函館の方が札幌よりも歴史が長いはず…なぜわざわざ札幌ができたのか？考えたこともありませんでした。また、前々からなぜ、他の都道府県と違って北海道だけ、道なのだろうか…となんとなく思っていたのですが、その開拓の歴史を少し垣間見ることでその理由を知ることができました。

北海道にはアイヌの人々が先住民として生活しており、松浦武四郎がアイヌ語で「この地に生まれた人」を意味する「カイ（加伊）」を、アイヌの人々への深い敬意を込めて加えた「北加伊道」という名称に入れ、明治２年（1869年）に新政府に提案し、新政府がこの「カイ」に「海」の字をあて今の北海道と命名されたとされます。

「道（どう)」というのは、律令国家の地方行政の基本区分だそうです。７世紀後半にみやこに近い５つの国を畿内五カ国とし、それ以外を７道（東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道）に分けたとされます（五畿七道)。そもそもその当時は北の大地は未開の地であり、北海道と命名されたのはそのかなり後であり、五畿七道に北海道は含まれていません。しかしながら、７道があったがゆえに北海道という名称は、自然な名前として認識されてきたようです。

ではなぜ今も北海道と道がついたままなのでしょうか。当時は、「道（どう)」は、いくつもの「国」が含まれる広い地域を指していました。例えば東海道には三河国（みかわのくに）や駿河国（するがのくに）などが含まれていました。北海道の場合には、命名された際には11カ国が設定されましたが、「国」が独立した行政区とみなされることがなかったようです。一時は函館県、札幌県、根室県が誕生したようですが、非効率的であり、３県は廃止となりました。それ以来、北海道は、その広大な土地を有するにも関わらず、全体で一つの行政区域となっています。

なぜ札幌ができたのかについてですが、江戸時代の末頃、ロシアが急激に南下政策を推進し、樺太にその勢力を拡大してきました。これまで北前船の寄港地として栄えた函館は本州に近く便利ではあったのですが、北海道全域の統治および防衛に対しては地理的に不利でした。当時の明治新政府は、ロシアの脅威に対して、北海道の内陸部を開拓して食料を自給し、街と道路を整備する必要がありました。この点に有利な盆地であった札幌が選ばれたとのことです。その後、札幌の開拓は徐々に進んでいったのですが、札幌が函館の人口を初めて超えたのは1940年頃です。

この北海道には今も約500万人の方が生活しています。私はこの2026年４月に北海道大学　大学院医学研究院　形成外科学教室の第４代教授を拝命いたしました。この広い北海道では十分な医療が受けられない地域が多く存在します。それもこの北海道という広大な地域性ゆえのことだと思います。遠隔医療などのその解決法の一つとして期待されていますが、形成外科領域ではまだまだこの遠隔医療の応用は進んでいません。残りの医師人生をかけて道内の方にしっかりと形成外科の医療を届けていきたいと思います。そのためにも北海道医師会の先生方のお力が必要でございます。これから何卒よろしくお願い申し上げます。